

令和5年度 中央区立久松小学校 外部評価報告書

評価委員：前田晶雄委員、関口利子委員、川口修一郎委員、村上浩一郎委員
川名信一委員、福田俊子委員、酒井寛昭委員、及川純委員、野口幸一委員
植田朱美委員

報告書作成者：野口幸一委員

評価時期 令和6年2月

1 重点目標の評価

重点目標1「年間を通した教育課程の充実」について

- ・教育活動を工夫しながら取り組んでおり、大変感謝している。先生方の努力の賜物であると考ええる。
- ・児童と教職員に互恵性のある教育活動がなされることを期待している。
- ・児童数が増加傾向にある中仕方がないが、学校行事等を全校児童が一堂に会して実施することが叶わない現状は残念である。
- ・ICT関係でタブレット端末はどのように活用できているのか。保護者の不安や負担を軽減する工夫をお願いしたい。

重点目標2「豊かな心と健やかな体の育成」について

- ・今後は一層幼小の連携を大切にしてほしい。
- ・学校の近くを通ると、会釈をしてくれる児童が少なくなったように感じる。久松しぐさなどしっかりと指導してほしいと思う。
- ・子どもたちの視力低下や運動不足など、体力的な部分が心配である。このコロナ禍で姿勢が悪くなったり乱視になったりする児童が増えてきている。学校でも家庭でも児童の健康にもっと目を配っていく必要がある。

2 今後の改善に向けた意見

- ・教員評価で「1」がほとんどないが、毎年人事異動がある中、久松のスタイルに合わない教員が出てきてもおかしくない。よりよい学校づくりのためには、そのような教員とのコミュニケーションが大切である。
- ・大きな変更がいくつかあった令和5年度であるが、変更点についてはその理由を丁寧に説明することが大切である。
- ・日本橋かるた大会は熱気に満ちており、とてもよかった。PTAとしても、子どもたちのためになる活動を充実させていきたいと考えている。ゲストティーチャーの活用などは、学校側の負担についても考慮して考えていきたい。
- ・残さねばならないことと、変わらねばならないことをしっかり見極めて、教育活動を進めてほしい。